枚方版 ICT教育モデル

ICTの活用による新しい学校教育の確立

枚方市教育委員会

第5版（令和7年3月改訂）

ー 目次 ー

1. はじめに p.1

2. 枚方版 ICT教育モデル作成の背景 p.2

(1) 20年後の未来
(2) 枚方版 ICT教育モデルの位置づけ
(3) 枚方版 ICT教育モデルの全体図

3. 子どもたちに「生きる力」を育む p.5

(1) これからの子どもたちに必要な資質・能力
(2) セルラー通信でつながり続ける
(3) 枚方市が大切にする5つのCの視点
(4) 授業と家庭学習のシームレスな学び
(5) 9年間で身につける力 「Growing Map」
(6) デジタル・シティズンシップ教育

4. 学校が変わる! p.16

(1) 授業改善・家庭学習
(2) 全国学力・学習状況調査から
(3) 子ども支援・家庭連携
(4) 働き方改革・業務改善
(5) 1人1台端末と健康
(6) 学校に登校できない児童・生徒の学習指導
(7) 生成AI「も」学びのパートナー

5. モデルカリキュラム p.30

(1) 大阪府情報活用能力ステップシート
(2) 年間指導計画 小学6年(例)

6. 実践事例 p.34

HI-PER(Hirakata ICT Practical Example Record)

目次へ

枚方版 ICT教育モデル作成の目的

今の子どもたちが迎える未来は、**予測困難な時代**と言われています。社会の在り方が劇的に変わる**「Society5.0時代」が到来**する中、本市では、国の**「GIGAスクール構想」**も踏まえて、市内公立小・中学校において、

児童・生徒に1人1台端末を配備しました。

このモデルは、**未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力**を育成するために、1人1台端末を効果的に活用した枚方市のめざす教育を示すものです。

枚方市は、セルラーモデルのiPadです。

1人1台端末は、操作が簡単で、直感的に使えるiPadを選びました。起動も速く、自分の考えを分かりやすく表現できます。

セルラーモデルなので、**「いつでも」「どこでも」使うことができます。**

子どもたちが、鉛筆やノートのような文房具の1つとして使いこなしていくことをめざします。

デジタルの力でリアルな学びを充実

1人1台端末は、リアルな学びを支える**最高のパートナー**です。デジタルの力によって、友だちの考えを瞬時に確認でき、より詳しく聞くことで話し合い活動が充実します。また、友だちと共同編集で資料や作品を創り上げることもできます。デジタルアンケートによって、結果が自動でグラフになり、素敵なプレゼンテーションによって、自分の考えを的確に相手に届けることもできます。

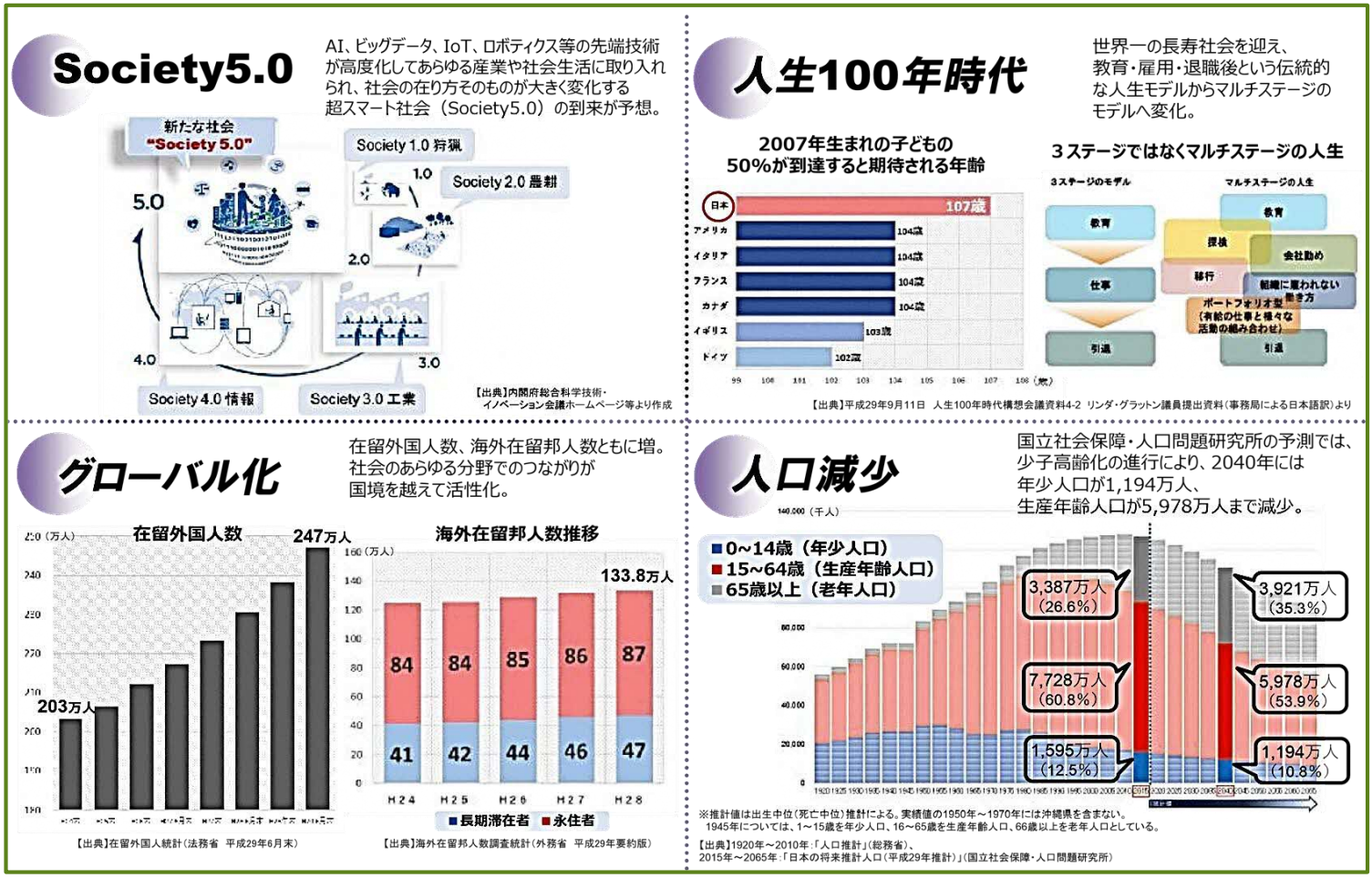
デジタルの力で、教育活動での**リアルな体験を一層充実**させることができます。

2. 枚方版 ICT教育モデル作成の背景

目次へ

(1) 20年後の未来

今から25年前の2000年、この年の流行語年間大賞は「IT革命」。しかし、まだスマートフォンもタブレット端末もありませんでした。学校では、土曜日に授業が行われていました。これから先、どのような未来が待っているのでしょうか。



図のように、情報技術の高度化、国境を越えた交流の活性化、少子高齢化等、現状からも誰も経験をしたことがない未来が予測できます。さらに、情報技術の高度化により、新たな価値が次々に生まれ、人が生み出した技術でさえも、人の想像を超えるものとなっています。
そうなると、20年後の未来は全く予測も想像もできない出来事が起こっているかもしれません。
20年後には、小学1年生が26歳、中学3年生が35歳になります。
子どもたちが自らの可能性を最大限に発揮し、主体的によりよい社会の創り手となり、幸せに生活するためには、学校教育の中でどのような力を身につけていく必要があるでしょうか。

あなたは、子どもたちにどのような力が必要だと思いますか。

目次へ

(2) 枚方版 ICT教育モデルの位置づけ

予測困難な時代を生きる子どもたちが、必要な資質・能力を身につけるために、枚方市では、以下のように「枚方市教育大綱」、「枚方市教育振興基本計画」、「1人1台端末更新に係る各種計画」を策定しています。そして、より具体的な教育の在り方を示すため、「枚方版 ICT教育モデル」を作成しました。

枚方市教育大綱（抜粋）

枚方市の教育理念

『夢と志を持ち、可能性に挑戦する“枚方のこども”の育成』
～ 子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす枚方の教育～

＜重点方針1　社会を生き抜く力の育成＞

・一人ひとりの教育的ニーズを大切にし、1人1台端末も活用した個別最適で協働的な学びにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現します。
・変化の激しい社会においても、力強く生き抜くために必要な、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の育成に取り組みます。

枚方市教育振興基本計画（抜粋）

教育目標　学びあい、つながりあい、一人ひとりの未来をひらく
～個人と社会のウェルビーイングの実現をめざし、可能性を最大限に伸ばす～

基本方策1　確かな学力と自立を育む教育の充実

仮想空間やデジタル技術、ネットワークの活用が一般化された超スマート社会(Society 5.0)に対応するため、プログラミング教育の推進や情報活用能力のさらなる育成の視点も踏まえながら、ICT活用による新しい学校教育の確立に向けた「枚方版ICT教育モデル」や国のGIGAスクール構想に基づき、1人1台端末等のICTを活用した協働型・双方向型の授業及び個別最適化された学びの一層の推進に取り組みます。

重点的に進める取組

(1) 社会を生き抜く力の育成
- 1人1台端末を活用した個別最適で協働的な学びの推進による「主体的・対話的で深い学び」の実現

(3) 誰一人取り残されない教育の実現
- 不登校の児童・生徒が登校しやすい学校づくりや、学校復帰以外の選択肢を含めた支援、ICT等を活用した学習支援など個に応じた取り組みの推進
- 支援が必要な児童・生徒に対する1人1台端末などの効果的なICT活用による支援
- 一人ひとりの学力の進度に合わせた家庭学習や自学自習などICTの活用による個別最適化された学びの実現

1人1台端末更新に係る各種計画

端末整備・更新計画　ネットワーク整備計画　校務DX計画　1人1台端末に利活用に係る計画

1人1台端末活用とクラウド環境を前提とした「全ての子どもたちの可能性を 引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現に向けて、子どもたちが課題を解決するため に学習過程や学習形態、何を使って学ぶかなどを自己選択・自己決定していく学びを推進します。

枚方版ICT教育モデル

目次へ

(3) 枚方版 ICT教育モデルの全体図

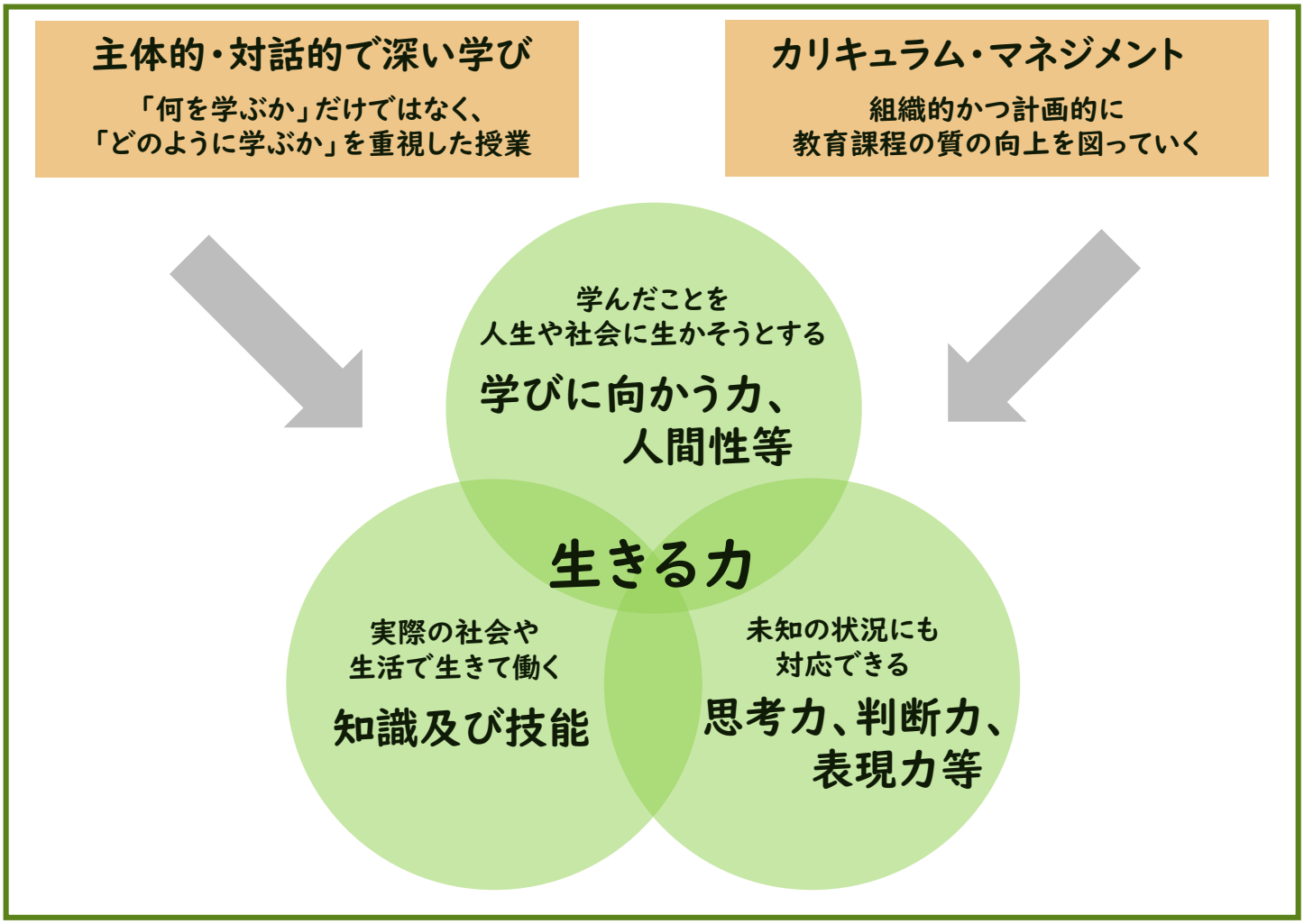
全体のイメージ図です。セルラーモデルの1人1台端末の特長を生かし、学校と家庭がシームレスにつながることで、国が示す資質・能力の育成をめざします。また、枚方市が大切にしていく「5つのC」の視点も意識しながら、教育目標の達成に向けて様々な取組を推進していきます。

3. 子どもたちに「生きる力」を育む

目次へ

(1) これからの子どもたちに必要な資質・能力

学習指導要領では「生きる力」を育むために、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」と「カリキュラム・マネジメント」により、各教科等において、以下の3つの資質・能力を育成することが示されています。



あわせて、学習の基盤として、3つの資質・能力の育成が掲げられています。

言語能力

自分の思いを伝えたり、他者の思いを受け止めたりしながら、コミュニケーションをとるための重要な能力です。

情報活用能力

あらゆる出来事の中に、色々な情報があることを理解して、それらの情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを作ったりしていくための能力です。

- ●コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得る力
- ●情報を整理・比較する力
- ●得た情報をわかりやすく発信・伝達する力
- ●情報手段の基本的な操作の習得
- ●情報モラル、情報セキュリティ　など

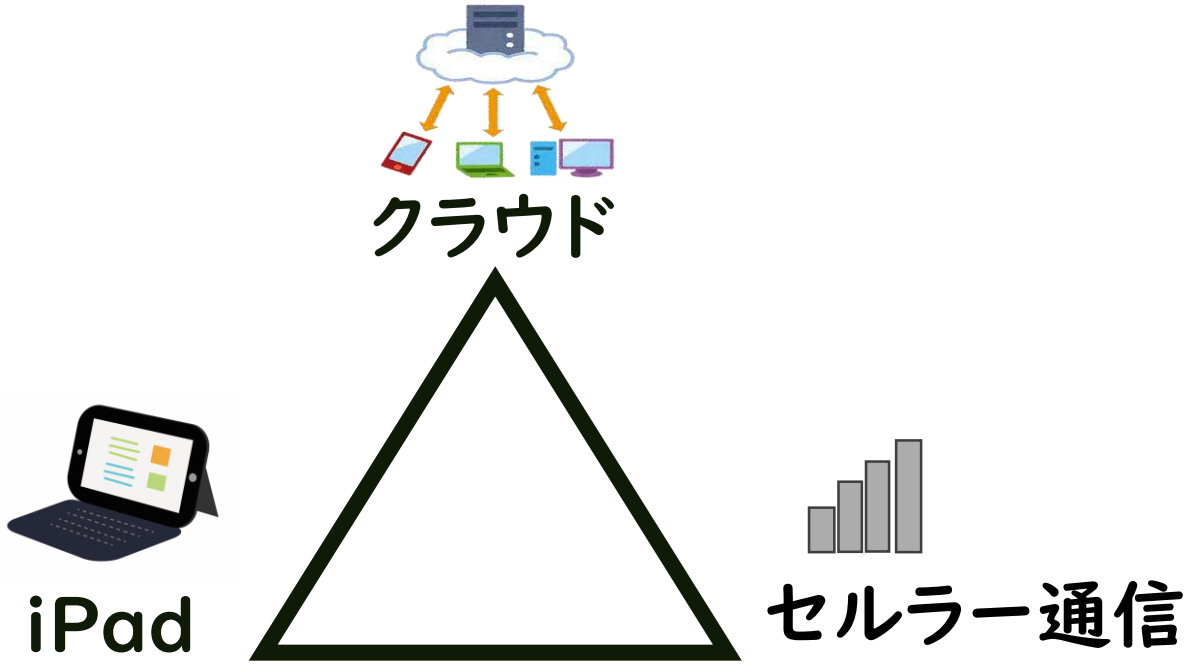
問題発見・解決能力

物事の中から問題を見いだし、PDCAサイクルを働かせながら、問題の発見・解決のための道筋をたてる能力です。

目次へ

(2) セルラー通信でつながり続ける

1人1台端末を活用した子どもたちの学びが、通信環境の影響によって途切れることがないように、枚方市ではセルラーモデルを選びました。このことによって、1人1台端末と1人1アカウントを合わせることで、「いつでも」「どこでも」つながり続ける環境が整いました。



「いつでも」「どこでも」
つながり続けることが可能に！

家庭学習や校外学習でいつでもどこでもiPadが使えて、学校の授業とつながる！

交流学習でいつでもどこでもiPadが使えて、学校外の場所とつながる！

学習eポータルでいつでもどこでも先生や友だちとつながる！

学校の情報発信がいつでもどこでもできて、保護者や地域とつながる！

様々な環境にある児童・生徒といつでもどこでもつながる！

あなたなら、どのような「つながり」をイメージしますか。

目次へ

(3) 枚方市が大切にする5つのCの視点

枚方市では、学習指導要領が示す、これからの子どもたちに必要な資質・能力を育成するために、Cから始まる5つの視点を大切にします。1人1台端末を活用し、5つのCの視点を意識し、**「学びに向かう力、人間性等」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」**を身につけていきます。

Challenge チャレンジ 挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

Communication コミュニケーション 意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

Collaboration コラボレーション 協働

課題を解解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考え方を持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

Creativity クリエイティビティ 創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイディアを表現します。また、アイディアを相手と共有することで、より深まりのあるアイディアを創り出します。

Critical thinking クリティカルシンキング 思考・判断

物事を多面的な視点でとらえながら、調べた内容や相手の意見等の情報を正しく判断するために、その理由や事実に矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

目次へ

Challenge チャレンジ 挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

例えば

社会の授業の後、みんな同じ課題を解いたり、宿題をするだけではなく、インターネット等を使って、授業中に疑問に思ったこと、もっと知りたいと思ったことについて深く調べることにチャレンジすることができます。

総合的な学習の時間では、海外のNPOとオンラインでつないでインタビューや学校の取組を紹介する等前例のない新しい学びにチャレンジすることができます。

家庭科の授業では、食生活の題材で自分の生活の中にある課題を発見する場面で、iPadを使い撮影し、記録に残すことができます。また、課題解決のために実践をした後、写真を撮り比較することで、課題解決の道筋を振り返ることができます。

Communication コミュニケーション 意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

例えば

英語の時間では、海外に住んでいるNETの友人や外国の中学校とビデオ会議システムでつなぐことにより、目的や場面、状況に応じた会話を行うことができます。1つの課題に離れた場所から対話しながら一緒に取り組むこともできます。

体育・保健体育の時間では、自分の技を撮影して、ペアで動作を確認することにより、自分の動きを客観的に把握することができます。また、お互いの技の動画を見せ合い、話し合うことにより、お互いの動きを比較し、できていることや修正点の確認ができます。

国語の授業では、感想や意見の交流を行うときに、デジタルホワイトボード等を使うことで、お互いの考えをiPadを見ながら交流することができます。また、交流した意見は、モニターやスクリーンに映したり、自分のiPadで見ることができ、他人の考えと比べることで自分の考えを深めることができます。

目次へ

Collaboration コラボレーション 協働

課題を解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考え方を持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

例えば

社会の歴史の時間では、班でもっと深く学習したいことを設定し、自分たちで調べ、調べた内容を共同編集機能を使って、全員で1つのスライドを作ることができます。

総合的な学習の時間では、企業の方の話を聞きたいときに、ビデオ会議システムを用いることで、今まで行けなかった場所で働いている人たちから話を聞くことができるようになります。

体育・保健体育の時間では、ボール運動系のゲームや表現運動系の発表を撮影すると、個の動きや仲間との連携等を動画で振り返ることができます。それにより、新しい動き方の相談やお互いの動きをアドバイスする等して、活動の質を高めることができます。

Creativity クリエイティビティ 創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイディアを表現します。また、アイディアを相手と共有することで、より深まりのあるアイディアを創り出します。

例えば

音楽の時間では、旋律作りをする時に、何度も繰り返し演奏して旋律を作ることが、楽器の演奏によっては難しい時もありましたが、iPad上で旋律作りをすることで、様々な楽器の旋律作りが簡単になります。また作った旋律の保存も簡単です。

総合的な学習の時間では、自分たちが学びたいSDGsのテーマを設定し、ビデオ会議システムを使い、離れた場所にいる人や会社等の話を聞くことができます。そして、生み出したアイディアをプレゼンテーションソフトや動画編集ソフトでわかりやすくまとめ、世界中の人に広く発信することができます。

国語の時間に読んだ物語の情景を、図工の時間に絵を描き、それをiPadに取り込みます。取り込んだ絵を背景に、音読の声を録音することで、子どもたちは物語の世界に入りきって豊かな表現ができます。

目次へ

Critical thinking クリティカルシンキング 思考・判断

物事を多面的な視点でとらえながら、調べた内容や相手の意見等の情報を正しく判断するために、その理由や事実に矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

例えば

理科の時間では、実験の様子を動画に撮影し何度も見返すことで、自分の考えを深めることができます。また、他の班の実験映像を見て考察することで、自分の考えを検証し、新たな気づきにつなげることもできます。

図画工作・美術の時間では、学んだことの振り返りをクラウドの中に保存しておくことで、単元や学年、小学校と中学校とのつながりを実感しながら学ぶことができます。また、自らの問題解決の課程を振り返ることもできます。

社会科や総合的な学習の時間に、デジタル副読本「わたしたちのまち枚方」を活用し、枚方市の地理や文化、歴史などを学びます。調べた内容を比較し、他者の考えを知り、議論することで、多面的・多角的に物事を捉え、自分の考えを整理し、考えることができるようになります。

コラム

GIGAフェスで生まれた「5C+1」

令和6年1月に開催した「GIGAフェス2023 in ひらかた万博」では、パネラーの小中学生が「5C（Challenge、Communication、Collaboration、Creativity、Critical thinking）にもう1つのCを付け加えるなら？」という質問に次のように答えました。

Curiosity：好奇心（色々なものに興味をもつ）、Choice：選択（自ら進んで選択する）

子どもたちが大切にしたい「もう1つのC」を聞いてみるのもよいかもしれません。

私たちも子どもたちと一緒に大切にしたい「C」を考えていきませんか。

あなたが考える「C」は何ですか？

参 考 資 料

教育の情報化に関する手引（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html

StuDX Style（文部科学省）

https://www.mext.go.jp/studxstyle/

リーディングDXスクール（文部科学省）

https://leadingdxschool.mext.go.jp/

大阪の児童生徒が1人1台タブレットPC端末等を活用した実践事例(大阪府教育センター)

https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/jyouhou/

目次へ

(4) 授業と家庭学習のシームレスな学び

シームレスとは、「途切れない」「なめらかな」という意味です。枚方市の1人1台端末の特長である、「いつでも」「どこでも」オンラインにアクセスできる環境を活用し、授業が家庭学習へ、家庭学習が授業へとつながるシームレスな学びをめざします。

シームレスな学び（例①）

知識・技能の定着

学習履歴で教員が状況を把握できるので、授業の最初に、間違いが多かったポイントを押さえることから始められます。

今日の授業を復習するため、デジタルドリル教材の〇〇をやっておいてください。

問題を解いたら、
すぐに自動採点してくれる！
間違った問題をもう一度やろう！

皆さんの結果を見ていると、△△を間違っている人が多かったです。
そこをもう一度押さえてから、次の授業に入りましょう。

シームレスな学び（例②）

協働学習

グループで協働して、プレゼンテーション資料や作品づくりをする時に、1人1台端末を使うことで家庭でも友だちと共同作業ができます。

留学生に大阪のいいところを、英語でアピールするプレゼンを班で作ります。発表は〇月×日です。

iPadを使って、大阪の良いところを探してみよう。

みんないろいろ調べてきたね。それぞれの意見をプレゼンに取り入れよう。

続きは家でやろう。
追加で良い案があれば、共有ファイルに書き込んでいこう！

あっ、〇〇さんが追加している！
思ったことをコメントしておこう。

今まで授業でしかできなかった
調べ学習や協働学習が家庭でもできるから、
プレゼンの質が今までよりあがりました。

△△さんのコメント、なるほどなぁ。
少し考え方を変えてみよう！

シームレスな学び（例③）

思考力・判断力・表現力の充実

家庭で時間をかけて考え、提出しておくことで、次の授業で余裕をもって授業を組み立てることができます。

短歌の空欄になっている部分、あなたならどんな言葉を入れますか。そう考えたわけも書いて、先生に提出しておいてください。

余裕をもってじっくり考えられる！
先生に提出OK！

今日は皆さんが事前に提出してくれた言葉とわけをもとに、授業を始めます。

(5) 9年間で身につける力「Growing Map」

目次へ

学校や家庭で1人1台端末を効果的に活用することで、小学校入学から中学校卒業までの間に、以下のような情報活用能力の育成をめざします。

目次へ

(6) デジタル・シティズンシップ教育

家庭では、スマートフォンやパソコン等の広がりにより、デジタルは日常的な環境になってきました。しかし、今までの学校では、デジタル環境はパソコン室等限られた環境で使う非日常的なものでした。1人1台端末が貸与されることで、デジタルは鉛筆や筆箱のような文具と同じ日常的なものとなります。家庭でも学校でもデジタル機器が不可欠になった現在、子どもたちには、デジタル機器の良いところ、危険なところを理解し、主体的に活用することができるようになることが求められます。

ICT機器活用には3つの過程があると言われています

①導入期（わくわく期）
新しい機器が入って期待効果が高まる時期です。いずれは消失しますが、この時期を上手に行うことでスタートダッシュが簡単になります。

②挑戦期（やらかし期）
想定外の使い方をし、予期せぬ問題が発生する場合があります。一人ひとりの違いを理解し、寄り添った支援をすることでより活用が進みます。

③安定期（ぐんぐん期）
ICT機器を使うことが日常のものとなっていきます。普段の生活の中で工夫して使い方を広げていきます。活用の停滞等に注意が必要です。

1人1台端末になることで

- 子どもの可能性やできることが広がります。
- 情報社会という公共のマナーを学ぶ機会ができます。
- ネットトラブルは機器のせいにせず、背景の要因をとらえます。
- ICT機器も刃物と同じでよい使い方を学ぶことが大切です。

大事になることが

デジタル・シティズンシップ教育

です

「オンライン及びICTの利活用を前提」とし、その環境で安全かつ責任を持って「行動するための理由と方法」を主体的に学び、仕組みを理解するだけでなく「情報技術に関連する人的、文化的社会的諸問題を理解し、法的・倫理的にふるまう」ための「能力とスキル」を育成する教育。

具体的な学びの進め方

ICT機器の正しい使い方については・・・

- 児童・生徒の試行錯誤、議論に任せる。
- 教員は一人ひとりの進捗状況を巡回し把握する。
- 児童・生徒の気づきを大切にする
- 学習者が意見表明、説明することを呼びかける。
- 児童・生徒の本音を引き出す、本音に共感する。
- 個別・多様な捉え方があることを理解する。

「GIGAスクールに向けた情報モラル教育からの転換2021」より
今度　珠美（鳥取県情報モラルエデュケーター　国際大学グローバル・コミュニケーション・センター客員研究員）

【実践事例】

目次へ

小倉小学校　相手・目的を明確にしながら言語活動や情報発信！

小倉小学校では、ICT機器を効果的に活用しながら、企業や地域、他校の児童と積極的に繋がりを作ることで、相手意識や目的意識が明確になり、児童がより課題に熱中できるようになりました。学校を超えた世界とつながることで、テクノロジーを当たり前に使いながら情報発信の大切さについても自然と学びます。また、ICTを手段として利用しながら、児童が自らの学びを選択・決定する複線型の授業デザイン（個別最適な学び・協働的な学び）にも挑戦しています。

令和2年度：校内体制整備

・情報担当者が中心となり活動。
・iPadを授業などでどのように活用すれば、深い学びになるかを研究。

令和3年度：クリエイティブな学びへの挑戦

・Appleの純正アプリケーションを活用し、子どもたちの創造性（クリエイティビティ）を育む。
・アウトプットへの意識向上。

令和4年度：学校内外へのリアルな相手意識・目的意識の醸成

クリエイティ部発足

・「小倉テレビジョン」「小倉CM制作会社」「小倉ブロガー」を創設。
・児童が小倉小学校の良さを学校内外に発信。

国語や総合的な学習の時間を軸に、相手意識・目的意識を明確にした探究活動を実施

・1年生：近隣幼稚園の園児に小倉小学校を紹介しよう！
・2年生：小倉校区のお店屋さん紹介！
・3年生：広報プロモーション課とコラボ！身近な枚方市を公式インスタで紹介
・4年生：宇治市立小倉小学校とオンラインで学校紹介！
・5年生：関西外国語大学の留学生に日本文化を紹介しよう！
・6年生：枚方市をより良い街にするための提案を枚方市役所職員さんにしよう！

令和5年度：個別最適な学び・協働的な学びへの挑戦

・児童が学び方（1人・複数）や学習手段（紙・iPad）を選択できる授業デザイン。
・「教材研究シート」を活用し、『評価から言語活動』を設定。
・ICT機器の活用は、目的ではなく手段。
・全ての児童がゴールを達成するための支援体制の構築。

令和6年度：すべての子どもが自分の成長を実感できる学びへの挑戦

・子どもたちが自分の目標に向かって、いつでもどこでもシームレスに主体的に学べるように、授業改善に取り組んでいます。
・子どもたちは一人で、友だちと、先生と、ノートで、プリントで、1人1台端末で学習方法、学習形態を「自己選択」「自己決定」しながら学びを深めていきます。

ポイント

「国語の成果物、作る手段を子ども自身が選択」
言語活動における成果物を、紙とiPadのどちらで作るか、子ども自身が選択・決定できる授業デザイン。

目的を達成するための手段として、ICT機器を使うことが習慣化。情報発信する際、相手や内容、伝え方などを意識するようになりました！

子どもたちが主体的に学ぶポイントはなんだろう？

目次へ

【実践事例】

枚方中学校　子どもたちが使い方を考え、改善する！

枚方中学校では、生徒による「ICT委員会」を発足し、子どもたちが中心となってiPadのより良い使い方を議論しました。iPadをよりよく使うための約束事を作成し、職員会議で説明、承認を受け、生徒が作成した約束事が学校のルールとして規定。地域の方々の要望を受け、生徒がコンピュータの操作やパスワード設定のワークショップを実施。子ども自ら考え、行動することで、テクノロジーの善き使い手となります。

令和2年度：校内体制整備

・情報担当者が中心となり活動。
・8月に有志で校内ワーキングチームを発足。
・時間割内で週に1回ICT会議を開催。

活用2年目の混乱

・生徒からは学年間でルールが違うことに戸惑いの声が。
・教職員からも学年によって指導内容を変えなくてはいけないことに戸惑いの声が。

令和3年度：生徒による「ICT委員会」発足

・様々な項目で利用をしばったところで、生徒たちのほうが利用に慣れていて、「抜け道」ができていくのではないか。
・生徒たちが利用上の約束事を検討する。
・教員発信のルールで押し付けず、自分たちが守るべき約束事にしたい。

生徒が職員会議で説明・承認

・完成した約束事をICT委員会生徒が職員会議で先生にプレゼン。
・承認を受けた後、ルールとして動き出す。
・随時、生徒が議論しながらブラッシュアップ。

令和5年度：民間企業とコラボ 音声認識をプログラム

・民間企業の音声認識ソフトにプログラムを組んで、枚方中オリジナルの音声対話システムを構築。
・iPadの豆知識や校則がすぐにわかる！

令和7年度、、、

使用上のルール策定

・教育委員会からのルールをそのまま活用。
・ルールの解釈が分かれるときには、細かな部分は各学年で相談し、都度生徒に説明。
例）壁紙の設定・休み時間の利用・板書を写真で撮ること等

校長の思い

・生徒が中心になって活動してほしい。
・1人1台端末の使い方について、指導をする場合は、個々に話をし、生徒全体の活用の機会を奪うことはしない。
・個別最適な学習をめざす中で考え方を転換していく。

専門家に相談

・利用上の約束事について、生徒が専門家とオンラインでつながり、悩みを相談。
・専門家から的確なアドバイスをもらい、改善に向けて動き出す。

令和4年度：校区コミュニティ協議会から依頼！

・ICT委員会の生徒が校区のコミュニティ協議会でiPad講座を実施。
・ICT委員会制作のスライドをもとに、Googleアカウントの作成手順を説明。

令和6年度：ICT委員会取組継続

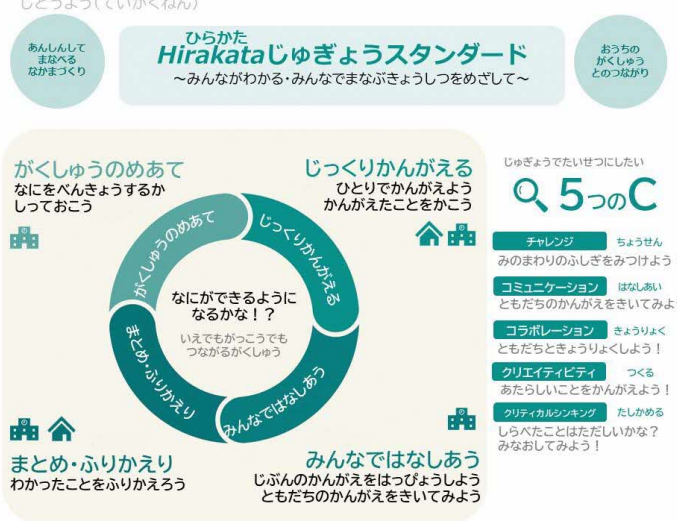
・ICT委員会でiPad利用の約束事を見直し、生徒の学習の実態に即した形で改訂。
・ICT委員会の生徒が講師として、校区コミュニティ協議会でポスター制作などの研修会を実施。

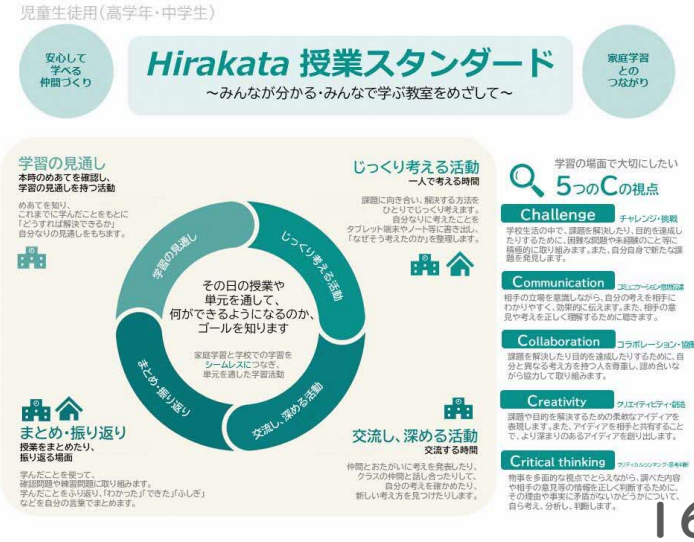
あなたなら、どのような取組を行いますか？

（1）授業改善・家庭学習

Hirakata授業スタンダードと5C

子どもたちが自ら学び、自ら考える教育の転換をめざすこれからの学校教育のあり方を見据え、また、枚方市がめざす学びの姿の実現に向けて Hirakata 授業スタンダードを改訂しました。さらに、これまで枚方版ICT教育モデルの中で示してきた授業計画時に大切にしたい5つのCの視点も取り入れています。





目次へ

（1）授業改善・家庭学習

様々な場面で、授業や家庭学習が変わります。

1人1台端末を活用することで、今までにはできなかったような学習が可能となり、新しい学習を通して、子どもたちの様々な資質・能力の育成が期待できます。

授業編

いつでも調べ学習が可能！

分からないことや気になることがあっても、いつでもインターネット検索することができます。

自分の音声や動きを撮って、自己評価！

自分の発音や朗読、演奏や運動の様子を動画で記録・再生し、自己評価をしながらスキルの向上ができます。

だれとでも共有や比較が簡単に！

学級内で複数の意見や考え等を共有したり、比較・整理することができます。

みんなでつくりあげる！

それぞれのタブレット端末を使いながらグループで分担したり、協働で作業したりして、作品を制作することができます。

オンラインによる交流学習の充実！

遠隔地の学校等との交流により、学校の壁を越えた学習が充実します。

さらに！

セルラー通信だから、校外学習等に持っていき、「いつでも」「どこでも」1人1台端末が使えます。

家庭学習編

デジタルドリル学習で知識・技能の定着！

自分の課題や興味に合わせて問題を選ぶことができ、自分のペースで知識・技能の定着を図ることができます。

次の授業に向けて家庭でじっくり考える！

次回の授業の中心となる課題について、家庭でじっくり考え、オンライン上で事前に提出することができます。

子どもの学びを絶やさない！

学校が臨時休業となった場合でも、双方向のオンライン授業や、オンライン家庭学習が可能となり、子どもたちが学び続けることができます。

友だちとの協働による学習も可能！

オンラインによる共同編集機能を活用することで、それぞれの家にいながらでも、一緒に学習することができます。

1人1台端末を効果的に活用することで、じっくり考える時間や友だちと交流する時間、協働する時間等を増やすことができ、「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」をより効果的に実現できるようになります。

目次へ

ポイント こう変えることによって

「授業の時間の使い方が大きく変わります」「個別最適な学びが充実します」

- じっくり考える時間や、協働する時間等を増やすことができ、「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことができます。
- 授業と家庭学習がシームレスにつながり、授業を「教室だからこそできること」に焦点化することで、「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことができます。
- 学習支援ソフトやインターネット等を効果的に活用することで、教員が個に応じた課題を与えたり、子ども自身が自らの興味・関心に応じた学習を進めることで「個別最適な学び」につなげていくことができます。

ポイント これだけは気をつけよう！

1人1台端末を
「使う」こと自体が
「目的」にならないように。

- 1人1台端末を単に「使うだけ」では、授業は深まりません。「なぜ？」「本当にそう？」「不思議！」「友だちの意見を聞いてみたい！」「もっと上手くなりたい！」…こういった子どもたちの「？」や「！」を大切にした、質の高い学習課題の提示が効果的な活用の鍵となります。
- 特に小学校低学年では、実際に見たり、触れたりすることで感性が育まれたり、具体的な操作活動によって学習の理解が深まります。 発達段階に応じて、実体験でこそ学べること、1人1台端末で学べることを上手く使い分けることが大切です。
- 1人1台端末を効果的に活用しながら、子どもたち自ら計画的に家庭学習に取り組めるように、校内で共通理解を図ることが大切です。
- 上記の内容を踏まえ、単元や内容のまとまり、1単位時間の中でICTを「いつ」「何のために」活用するのかをデザインすることが大切です。

文部科学省の資料も参考に！

「教育の情報化に関する手引 ―追補版―」（令和2年6月）の中で、授業形態に合わせたICT活用の事例が紹介されています。あわせてご参照ください。

あなたなら、どのように授業や家庭学習を変えますか？

目次へ

(2) 全国学力・学習状況調査から

毎年4月に、小学校第6学年、中学校第3学年を対象とした全国学力・学習状況調査が実施されています。この調査で問われている力は、OECD（経済協力開発機構）が15歳を対象に3年ごとに実施している学習到達調査、PISA（読解力）で問われている力と共通していることが多く、以下のような傾向が見られます。これらの力は、子どもたちがこれからの予測困難な時代の中でも、自らの可能性を最大限に発揮し、主体的によりよい社会の創り手となり、幸せに生活するために必要な力と考えることができ、世界的に求められている力と言えます。

PISAと全国学力・学習状況調査で共通して問われている力

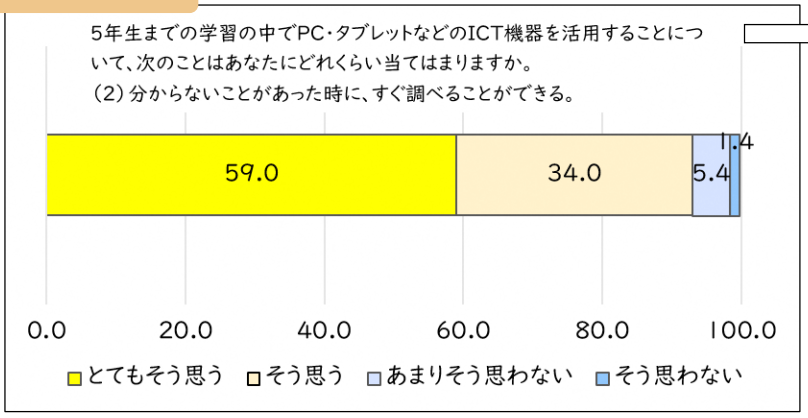
- 自分の考えを根拠を示して説明する力
- あらゆる種類の文章や図表等の中から必要な情報を探し出す力
- テキストの質と信ぴょう性を評価しながら読む力
- 目的に応じた書き方・聞き方・話し方の意図や効果を考え、表現する力

文部科学省HP「読解力向上プログラム（たたき台）」等参考

児童・生徒質問紙と学力結果の相関関係

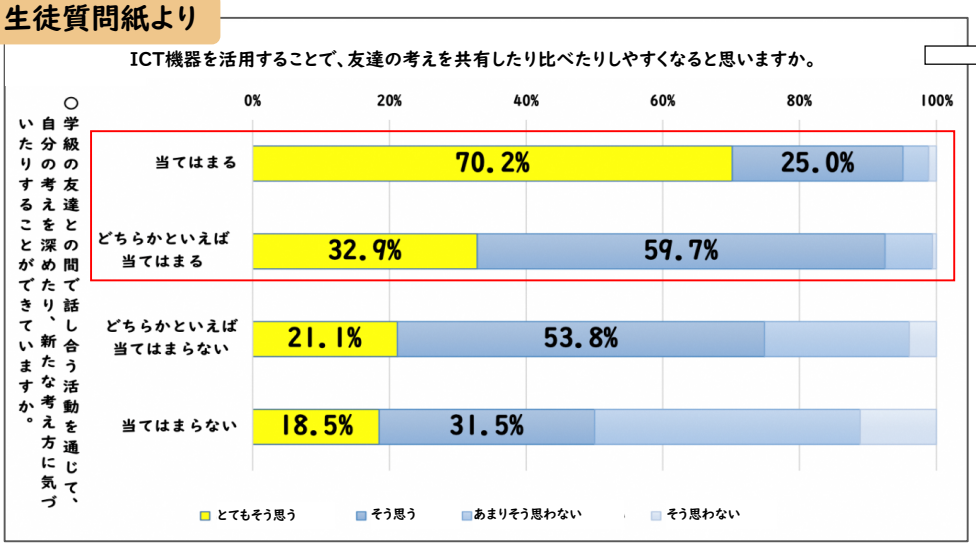
相関関係とは、2つのものがどれくらい関係しているかを表す言葉です。
例えば、「気温が上がるほど、アイスの売り上げも増える」場合、この2つには、正（プラス）の相関が見られます。逆に、片方が増えると、もう片方が減る場合は、負（マイナス）の相関が見られます。

児童質問紙より



「学習の中で、分からないことがあった時に、ICT機器を活用してすぐに調べることができる。」に対して、肯定的な回答が多いほど、枚方市立小学校の児童の学力調査（令和6年度）との正の相関関係が見られました。

生徒質問紙より



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたりして、新たな考え方に気づいたりする活動は、枚方市立中学校生徒の学力調査（令和6年度）との正の相関関係が見られました。

ポイント

それでは、授業の中で1人1台端末をどのように活用したらよいのでしょう。

国立教育政策研究所の報告書において、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答しています。その両方に取り組んだ学校グループの児童・生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。」ことが分析結果として報告されています。

目次へ

(3) 子ども支援・家庭連携

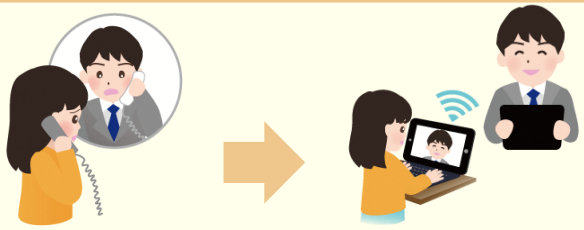
ICTを効果的に活用することで、配慮を要するさまざまな児童・生徒にも、一人ひとりに個別最適な支援の実現が可能となります。また、学校から保護者や地域への情報発信も、よりスムーズに行うことができます。

気持ちの見える化！

心の変化に
気づきにくい。

心の変化に気づき
声をかけられる。

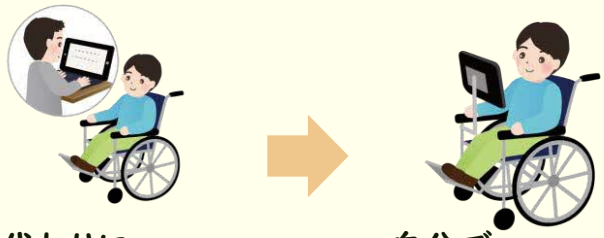
オンライン相談の充実！



電話での
相談は苦手…。

互いに顔を見ながら、
安心して相談！

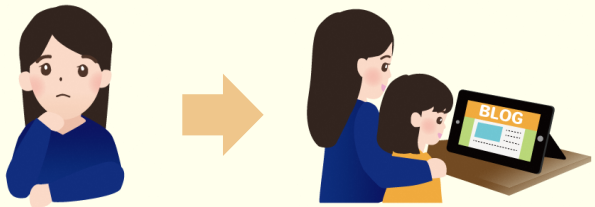
視線入力装置で文字入力が簡単に！



代わりに、
入力してもらう。

自分で
入力が可能に！

ブログによる情報発信！



学校の様子が
伝わりにくい。

学校の「今」を
迅速に発信！

ポイント こう変えることによって

「子ども一人ひとりに応じた支援・指導の充実」「学校の情報発信力の向上」

- 「オンラインによる面談」「長期欠席、不登校児童・生徒へのさらなる対応」ができます。
- コミュニケーション支援・活動支援・時間支援等で活用できます。
- 「オンラインによる相談」「ブログによる情報発信の充実」「学校だより・学級通信等の配信」ができます。

ポイント ここだけは気をつけよう！

- 子ども一人ひとりに応じた支援・指導を。
- 支援・指導のユニバーサルデザイン（UD）化を。

これまでと変わらない
大切な考え方、取組ですね！

すべての子どもたちが、安全・安心に、そして、自己肯定感・自己有用感を高めるための支援・指導を考えてみましょう！

目次へ

ポイント iPadのアクセシビリティ

障害の有無に関わらず、全ての児童・生徒の教育を充実させるためにICT機器の活用は非常に大切になります。また、発達障害等によって学習に困難を抱える子どもたちの可能性を高める手段として、ICT機器を効果的に活用した実践に期待が寄せられています。
iPadは多くのアクセシビリティ機能が備えられており、視覚、身体の動き、及び学習上のニーズに配慮がされています。

Voice Over（読み上げ機能）　音声支援

字を読むことが苦手な子どもには、Voice Overを設定することで、タップした部分をiPadが読み上げてくれます。文字だけでなく写真もどんな写真か、iPadが言葉で説明してくれます。

「設定」➡「アクセシビリティ」➡「Voice Over」で設定するか、Siriに「Voice Over オン!」と言うことで設定ができます。

Safariのリーダー機能　視覚支援

Safariを使って調べ学習等をしたときに、たくさん出る広告や写真等のせいで集中できない子どもたちはいませんか。そういった子どもたちにはリーダー機能を設定し、読みたいところだけに集中させて
あげてください。

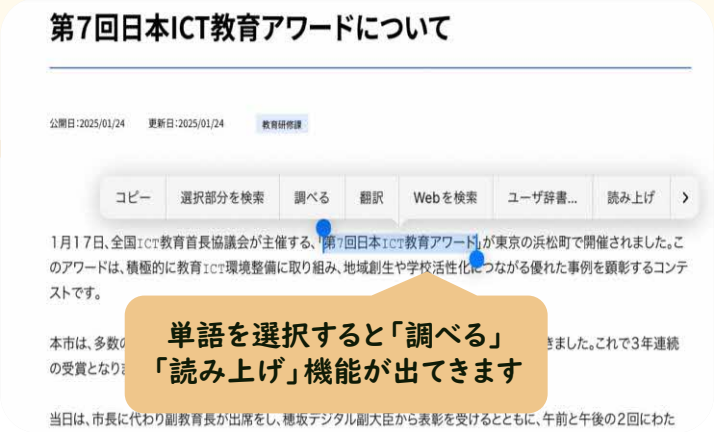
検索バー左の「ぁあ」をタップ

Safariの辞書機能　学習支援

Webページを閲覧中に出てきたわからない言葉を選択して、「調べる」や「辞書」を選ぶと、言葉の意味をすぐに調べることができます。漢字が苦手な子どもでも、すぐに自分で調べることが
できます。

選択項目の読み上げ　音声支援

Voice Overを設定しなくても、テキストの中で選択した部分をiPadが読み上げてくれます。



単語を選択すると「調べる」「読み上げ」機能が出てきます

Assistive Touch　操作支援

Assistive Touch機能により、画面をタッチすることやボタンを押すことが困難な場合もiPadを活用することができます。この機能を設定することで簡単なタップで様々なアクションを行うことができます。

「設定」➡「アクセシビリティ」➡「AssistiveTouch」で設定

文部科学省の資料も参考に　【発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック】

特別支援学級編

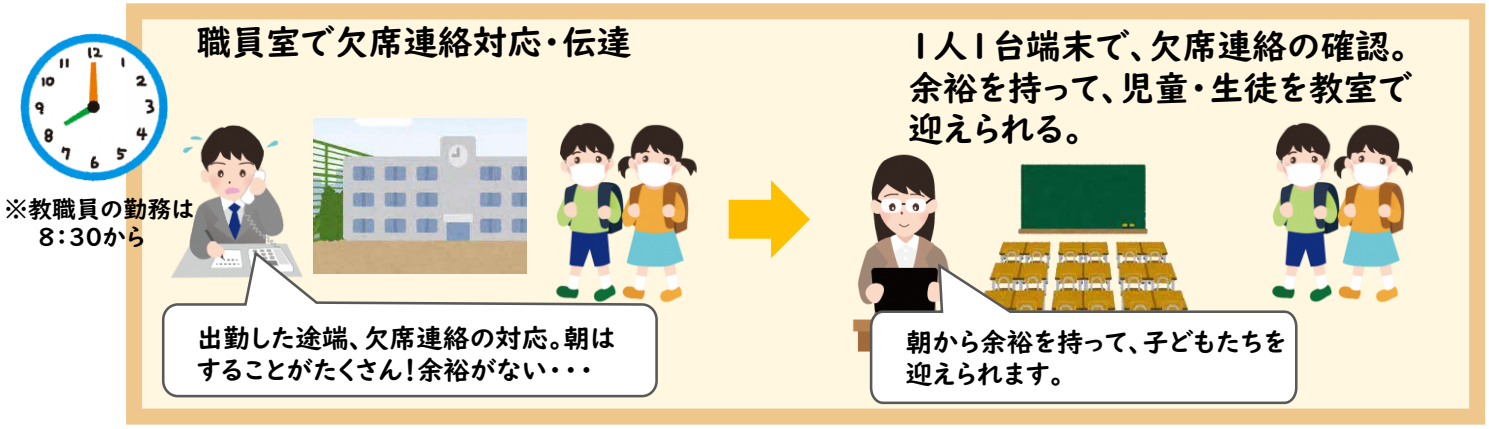
通級指導教室編

通常の学級編

目次へ

(4) 働き方改革・業務改善

教職員の事務作業を、ICTを活用して効率化することで、先生が児童・生徒一人ひとりとかかわる時間や教材研究・授業準備の時間を生み出すことができます。



ポイント こう変えることによって

「教育活動の質の向上につながります」「保護者の負担が減ります」

- 朝、欠席連絡等（電話対応）をしていた時間を子どもたちとの時間や授業準備の時間にあてることができるようになります。
- 連絡帳を近所の友だちに預けたり、朝から学校に電話したりすることなく、スマートフォン等で連絡可能（欠席や健康管理について）になります。

ポイント ここだけは気をつけよう！

これまでと変わらない大切なことですね！

- 子どもたちの育ちにとって大切なことについては、会議等でしっかりと話し合う必要があります。

どのような業務改善をすれば、今以上に子どもたちとの時間を創出できるか、考えてみましょう！

目次へ

業務改善×ICT 活用事例

デジタルドリル

問題演習にデジタルドリルを活用することで採点の時間を短縮。成績や履歴も収集できるので、子どもごとの理解度の確認にも利用可能。

教材や宿題作成の時間短縮

学習支援ソフト

●ワークシートの作成
⇒ シンキングツールの活用
●提出箱の活用
⇒ 宿題の提出（例：鍵盤ハーモニカ）
●作品（図工の作品の写真等）の提出
⇒ 学習評価の材料として
●カメラ機能
⇒ 黒板の写真（授業の記録として）
⇒ 連絡帳
●共有ノート
⇒協働学習

ワークシート作成や印刷の時間短縮

NHK for School

●番組 2900以上の番組を配信
●動画クリップ 約7000本
●ものすごい図鑑 360度方向から昆虫を観察できるデジタル図鑑
●お家で学ぼうNHK for School
お家で学ぼうワークシート

[どう使う？]
⇒授業のはじめ・中・おわりで
・実験や観察の方法、歴史の社会背景等を確認
・他事例をクリップで確認、学びの深化に
⇒家庭学習で
・予習、復習に
⇒自学自習で
・興味・関心のある探究活動に

教材や宿題作成の時間短縮

まなびポケット①

●連絡帳を投稿
●学級通信を配信
●手紙の配付

事前に予約投稿
印刷不要
配付時間の短縮
学年で共有
カラーで投稿

まなびポケット②

●朝礼をまなびポケットで
・ストリームに連絡事項を投稿
・「予定を設定」で配信日時を設定

Microsoft FormsやExcel

●保護者アンケート（Microsoft Forms）
●土曜授業、オープンスクールの感想（Microsoft Forms）
●個人懇談、家庭訪問日程調整（Microsoft Forms）
●教職員の調整事項（Microsoft Forms・Excel）

配付時間短縮
自動集約
共同編集（同時に見られる）
どこからでも確認編集可能

GiGAスク！ひらかた

●１人１台端末活用状況
●生成AI
●ICT活用のヒント
●ICT活用実践事例集
●働き方改革関連資料

まなViVA！ひらかた

●教職員研修動画
●研修予定・シラバス、冊子
●研究校・推進校の実践資料
●支援教育ポータルサイト

目次へ

（5）1人1台端末と健康

1人1台端末等ICT機器を活用するときは、児童・生徒の健康面に配慮することも大切です。以下のことに注意して、家庭とも連携し、上手に1人1台端末を活用しましょう。

教室での配慮事項

【参考サイト】
文部科学省作成「児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック(令和4年3月改訂版)」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/20220329-mxt_kouhou02-1.pdf

目の疲労の軽減のために

- 照明の明るさの調整
- 画面の反射や映り込みの防止
- 教材文字の見やすさへの配慮
- 30分に1回は画面から目をはなして、20秒以上、目を休めるような指導

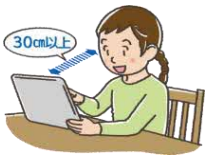
よい姿勢を保つために

- タブレット画面を目から30cm以上離すように指導
- 授業の中で、発表等、体を動かす機会を設けるような工夫
- 机上の整理整頓を指導

児童・生徒との1人1台端末を使うときの5つの約束

①タブレットを使うときは姿勢をよくしよう

・タブレットを見るときは、目から30cm以上はなして見よう。



②30分に1回はタブレットから目をはなそう

・30分に1回はタブレットの画面から目をはなして、20秒以上、遠くを見よう。

③ねる前はタブレットを使わないようにしよう

・ぐっすりねるために、ねる1時間前からはデジタル機器を使わないようにしよう。

④自分の目を大切にしよう

・時間を決めて遠くを見たり、目がかわかないようにまばたきをしたりして、自分の目を大切にしよう。

⑤ルールを守って使おう

・30分使ったら1回休む、学校のタブレットは勉強に関係のないことに使わない等、学校やおうちのルールを守って使おう。

【その他参考サイト】
- 文部科学省 児童生徒の近視実態調査結果・啓発資料掲載サイト https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2024/attach/mext_01403.html
- 日本眼科医会 子どもの目・啓発コンテンツ https://www.gankaikai.or.jp/children/index.html

※保護者の方へも、学校とともに、端末の使用時の健康面への指導や、児童・生徒がインターネット上の犯罪等の被害者や加害者にならないように指導する等、協力していただくことが大切です。

【参考サイト】
文部科学省作成「端末利用に当たっての児童生徒の健康への配慮等に関する啓発リーフレットについて」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00001.html

目次へ

【実践事例】

養護教諭から目と姿勢に関するメッセージ

授業中はもちろん、保健だよりや保健室前の掲示板を通じて、目の疲労軽減や姿勢に関する情報を発信します。保健の先生から児童・生徒へ、ためになる情報がたくさん！

樟葉西小学校と楠葉西中学校の取組

枚方市立樟葉西小学校

枚方市立楠葉西中学校

ポイント

目の疲労軽減、良い姿勢を保つために、、、

タブレットの使いすぎや画面に近づきすぎで、目や姿勢に負担をかけていませんか？30分ごとに休憩したり、遠くを見たりストレッチをしたりするなど、日頃からの習慣が大切です。

目次へ

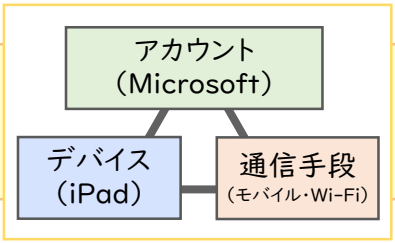
(6) 学校に登校できない児童・生徒の学習指導

児童・生徒の学びを止めないための取組として、ICTを効果的に活用することで、対応の選択肢が広がりました。例えば、ビデオ会議システムを活用することで、児童・生徒の健康観察や指導計画等を踏まえた教職員による学習指導と学習状況の把握を行うことができます。そうした対応を急に実施することは難しいため、平常時から非常時を想定した備えをすることが大切です。

【非常時における1人1台端末活用の目的】

つながる

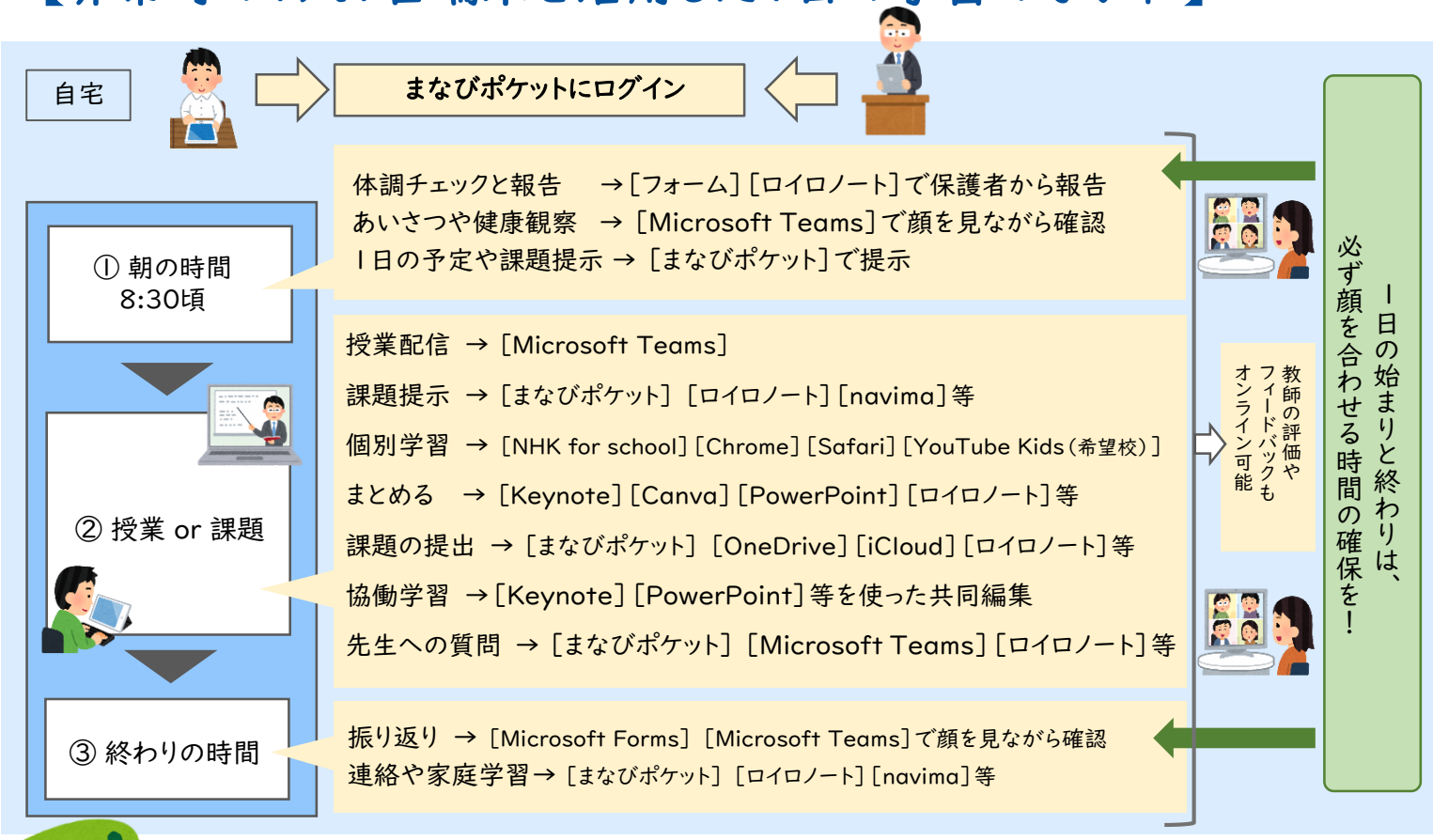
オンラインでつながることで児童・生徒が安心して学びに向かえる



学び続ける

「ゴール」を明確にした
「学習課題の設定」と「フィードバック」

【非常時の1人1台端末を活用した1日の学習のながれ】



ポイント

平常時から非常時を想定した備えが大切

一定の期間、児童・生徒がやむを得ず学校に登校できない事態はいつ起きるかわかりません。そうした対応を急に実施することは難しいため、平常時から非常時を想定した備えをすることが大切です。

やむを得ず学校に登校できない児童・生徒の学びを止めないための工夫は、学校によって異なりますが、子どもが安心して学びに向かえるように「つながる」取組は共通しています。

目次へ

(7) 生成AI「も」学びのパートナー

教育活動における生成AIの活用は黎明期で、技術革新やサービス開発が飛躍的なスピードで進展しています。教育現場でも、様々な活用のメリットが考えられる一方で、子どもたちがAIの回答を鵜呑みにするのではないかと心配もされています。令和6年12月、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）」が国から示されました。生成AIを「怖いもの」「危ないもの」として決めつけるのではなく、使いながらその良さや注意点を学びます。

枚方市立長尾中学校　生徒が生成AIを活用して学びを深める

Step1　生成AI自体を学ぶ段階

生成AIがどのような仕組みで動いているのか、その性質やできる（得意な）こと、苦手なこと、気を付けることなどを学びます。

長尾中学校の取組はこちら

Step2　使い方を学ぶ段階

より良い回答を引き出すためのAIとの対話スキル、プロンプト（指示文）、ファクトチェックなどを学びます。

子どもの実態に応じて、Step2と3を行き来したり、Step1をより深めたりします。

Step3　各教科等の学びにおいて「積極的に」&「効果的に」使う段階

問題を発見し、課題を設定する場面、自分の考えを形成する場面、異なる考えを整理したり、比較したり、深めたりする場面での生成AIの活用を学びます。

Step4　日常使いする段階

生成AIを検索エンジンと同様に普段使いします。

文部科学省
令和6年12月26日「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（Ver.2.0）」

文部科学省
リーディングDXスクール
生成AIパイロット校

ポイント　生成AIに聞いてみた！

意見の一つとして聞いてみよう！

「子どもたちにとって、生成AIを学ぶことは大切ですか？」

（回答）

はい、AIについて学ぶことは、未来の社会を生き抜くための大切なスキルの一つです。AIの仕組みを理解し、それをうまく使いこなせるようになると、多くの分野で役立ちます。しかし、それを使う際には倫理的な視点を持ち、情報の正確さを常に確認することが必要です。これからの時代において、AIは強力なツールですが、それを扱うのは最終的には人間です。だからこそ、AIについて学び、賢く使いこなすことが重要なのです。

なるほど、生成AI「も」学びのパートナーとなるため、どのような場面で使うことが望ましいでしょう？

【実践事例】

長尾中学校　生徒が生成AIを使いこなす！

R5 リーディングDXスクール
生成AIパイロット校として採択！

目次へ

長尾中学校では、生成AIを活用した学びを深めるために、色々な取組を行ってきました。

①生成AIを知る！

子どもたちに向けて、生成AIで何ができるのか、気をつけることは何なのか、外部有識者に講演会を実施

ChatGPTを利用するにあたって、保護者の理解を深めるために、保護者向け説明会を実施

②生成AIを使う！

総合の授業で、生成AIについてできる（得意な）こと、できない（苦手な）ことをまとめました。
また、道徳の授業では、情報リテラシー・情報モラルについてまとめました。
国語と英語の授業で、プロンプト（指示文）づくりの練習をしました。

国語科「ChatGPTと言葉遊び」
「すし－日本＋アメリカ＝？」の納得解を考え、その式の法則や構成を捉えました。その上でChatGPTにもこの問題を解かせたり、ChatGPTに新しい問題を作らせたりすることで、子どもたちは上位語と下位語をとらえたり、国語力の必要さを感じたりすることができました。

英語科「ChatGPTと英会話＆英作文」
関西外大とのコラボで、VRを通して、英会話練習をしたり、ChatGPTに自分の作った英作文を添削してもらったりして、自分の作った英文との違いに気づき、何度も練習できました。

③生成AIを使いこなす！

子どもたちはもう
使いだしています！

子どもたちの活用方法は無限大！色々なアプリとの併用まで考えて使い始めました。
教職員には、生徒が創造的に活用するためのハンドリングが鍵になるはず！

社会科・総合的な学習の時間「生成AI×探究学習×地域学習」
長尾駅周辺地区は、「市街化調整区域」に指定されており、土地利用の方針として「環境共生ゾーン」に位置付けられています。枚方市の方針を踏まえ、みんなにとって住みよい街づくりをChatGPTに多角的な視点をもらいながらグループワークをしました。

支援学級「生成AI×グラフィックデザインアプリ」
美術の課題のアイデアがどうしても浮かばないという時に、思いついた言葉を画像にしてくれる画像生成アプリを活用してみました。写真やイラストという形で、イメージを形にしてくれます。

国語科・英語科「生成AI×読書感想文でファクトチェック」
「人間が書いた文？」「部分的に人間が書いた文？」「100%AIで書かれた文？」色々な感想文や英文を読んでみて、どれが生成AIで作られた文章かグループワークで見つけました。使ったことがある人は、生成AIが作った文章の特徴を捉えることができていました。

ポイント

半年間のパイロット校として実践してみて！

専門家から、『生成AIは想像以上のスピードで進歩していて、もう「使わない」という選択肢はなくなってきています』という話を半年前に伺いました。実際に生成AIにできることがどんどん増えていて、もちろん授業内外でのできることも増えてきました。生成AIを使う時間で、生徒のコミュニケーションする機会が減るどころか増えました。生成AI「も」学びのパートナーといえます！

【実践事例】

教職員が生成AIを校務で使いこなす！

市独自の実証事業を実施！

目次へ

枚方市立小中学校10校の教職員約270名が、生成AIを校務で活用し、事務作業の負担軽減や業務の効率化の可能性を検証しました。

校務生成AI実証事業の取組はこちら

Step1 ビジョン・スケジュールの共有

実証事業の目的やスケジュールを明確に示し、興味関心のある学校と一緒に役半年間の実証事業が始まりました。

Step2 現状把握と成果物の設定

教職員の生成AIの活用状況を把握するために、アンケート調査を実施しました。
また、100の実践事例創出を目標に、色々な場面での活用を促しました。

Step3 とにかく使ってみる！そして、実践をみんなで共有する

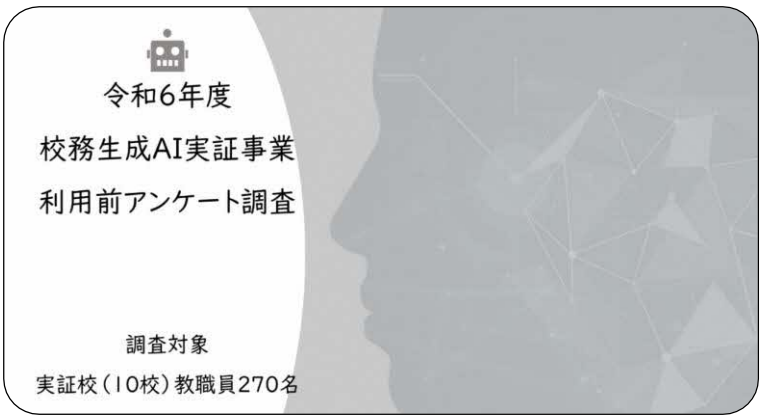
各校で校内研修を実施し、操作方法や具体的な活用場面を考えました。
チャットで実証校の教職員・教育委員会・民間企業がつながり、日常的な情報共有を行いました。
月1回程度、オンラインで実践報告会を行い、各校の実践を共有しました。

Step4 実践事例集の創出と効果検証

各校で校内研修を実施し、操チャットで実証校の教職員・教育委員会・民間企業がつながり、日常的な情報共有を行いました。
作方法や具体的な活用場面を考えました。
月1回程度、オンラインで実践報告会を行い、各校の実践を共有しました。

約100事例を創出！校務生成AI実践事例集

実証校教職員アンケート結果



ポイント

実証前と後での先生方の変化…

実証前に行った教職員アンケートでは、半数以上の教職員が生成AIによる業務の効率化や負担軽減に期待していることがわかりました。一方で、著作権、情報の信憑性、教育現場への適合など、不安の声も・・・
実証後のアンケートでは、86.2%の教職員が、校務での活用効果を感じる結果となりました。また、「生成AIはアンケートや振り返りの自由記述を整理・分析するなど、力を発揮する場面がよくわかりました。」といった回答がありました。

(1) 大阪府情報活用能力ステップシート

大阪府では、児童・生徒が学び方を身に付けるとともに、1人1台端末や学校図書館等、メディアの特性を活かし、アナログとデジタルを融合させ、多様な媒体や手段から情報を収集したり、適切に活用したりする力の育成をめざし、「大阪府情報活用能力ステップシート」を作成しました。枚方市では、このステップシートを活用して、各教科等の学習の中で児童・生徒の発達段階を考慮しながら、情報活用能力を系統的に育成していきます。

大阪府情報活用能力ステップシート

大阪府情報活用能力ステップシートの構成と特徴

1 子どもたちが学び方を習得し、自立した学習者となるために必要な「学びスキル」
2 学校図書館の3つの機能を活用し、より正確でまとまった情報が掲載されているという本の良さを生かして情報を得る等、各メディアも含む情報の特性を理解し、学校図書館で自ら必要な情報を探し出したりするなかで、課題解決を図るために必要な「学校図書館活用スキル」
3 子どもたちが、文房具の1つとして、1人1台端末とクラウドを日常的に活用しながら学びを深めるために必要な「ICTの基本操作スキル」
4 生成AI等の普及も見据え、社会に広がっている情報・ニュース等が事実に基づいているかどうか正誤を判断して、正しい情報を調べることや、情報を安全に活用するために必要な「情報モラル・情報セキュリティ」
5 コンピュータが動く仕組みや考え方を理解し、順序を考えて説明するなど、論理的思考力を身に付けるために必要な「プログラミング」

ポイント1

各ステップは、めやすとなる学年を示していますが、「何ができるようになるか」に着目して子どもたち一人ひとりの状況に応じて段階的に指導、学習を進められるようにつくっています。

ポイント2

情報活用能力体系表をまだ作成していない市町村や学校が参考としていただくことはもちろん、すでに作成している場合においても、今後、更新や改訂する際の資料として活用できるよう汎用性のあるものにしています。

ポイント3

体系表で示したつけたい力に関連した授業実践事例の一部を閲覧できる二次元コードを掲載することで、具体的な授業実践にアクセスすることができるようにし、教員にとって具体の授業構想につながるものにしています。

ポイント 情報活用能力って？

言語能力や問題発見・解決能力と並んで学習の基盤となる資質・能力の一つであるとされています。学習指導要領（平成29年告示）解説（総則編）では、「将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要」と述べられています。

大阪府「大阪府情報活用能力ステップシート」〈https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/jyohokatsuyounouryok/index.html〉（令和7年2月5日）

大阪府情報活用能力ステップシート

ステップシート表は次ページへ続いています。

目次へ

分類	項目	STEP1（めやす：小学１・２年生）	実践事例	STEP2（めやす：小学３・４年生）
1 学びスキル	A 課題の設定	身の回りの事象に関する課題を設定できる	小2「生活」校区探検にいこう	地域の事象に関する課題を設定できる
	B 収集	情報を収集する身近な方法を知り、実施できる		情報を収集する複数の方法を知り、実施できる
	C 整理・分析	・絵や図、簡単な表やグラフを用いて情報をまとめることができる ・共通と相違、事柄の順序など、情報と情報の関係を捉えられる ・正しくない情報があることを知る	小2「生活」もっと知りたいたんけんたい	・正しい情報かどうか確かめようとする ・情報カードを使って、集めた情報の記録や整理ができる ・表やグラフなどを用いて情報を整理できる ・複数の情報から傾向、変化を捉え、共通点や相違点を見いだすことができる ・全体と中心など、情報と情報の関係を捉えられる
	D まとめ・表現	・複数の情報から、わかったことをまとめられる ・自分の考えを写真や絵、手書き入力等による文字で、表現できる ・紙芝居、絵本、絵カード、ペープサートなどを使って表現できる	小2「国語」お気に入りの本を紹介しよう	・同一内容について2、3点以上の情報を比較したり、関係付けたりして、新たな意味を見いだせる ・自分の考えや意見を壁新聞やポスター、リーフレット、スライド等で相手を意識して表現できる
	E 振り返り・改善	情報活用を振り返り、感想をもつことができる		情報活用を振り返り、改善点を見いだせる
2 学校図書館活用スキル	F 本やメディアに親しもうとする態度	・たくさんの本にふれ、いろいろな本があることを知る ・読み聞かせ等を通じて、読書を楽しむ ・読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づく	小1「生活」あきみつけをしよう	・ブックトーク等を通じて、さまざまな本にふれ、その良さを知ろうとする ・必要な知識や情報を得ることに、読書を役立たせようとする
	G 図書館資料を利用する力	・知識（調べたこと）と体験をつなげられる ・何かを知りたいときに、学校司書等、学校図書館に関係する人々に自ら尋ねるなど、関わりをもつことができる ・学校図書館のきまり、本の借り方・返し方を理解して、学校図書館を利用できる	小2「国語」たんぽぽ	・考えに対する理由や事例（調べたこと）をつなげられる ・学校図書館にある本の配架や分類の仕方を理解して、学校図書館を利用できる
	H メディアを活用する力	・自然科学の本、図鑑の使い方がわかる ・抜き書きをしたり、絵や文などを用いたりして、調べたことをまとめる方法がわかる	小1「国語」どうぶつの赤ちゃん	・百科事典、国語辞典、漢字辞典、地図、地域資料などの使い方がわかる ・本の目次や索引の使い方を理解し、さまざまな教科の学習に生かすことができる ・調べたことや自分の考えをまとめるとき、著作物の引用や出典について明示することができる
	I 公共図書館等を活用する力	公共図書館の利用方法を知り、利用できる	小2「生活」あそび名人になろう	各種施設（公共図書館・博物館・資料館）の特徴を知り、どこへ行けばどんな資料が得られるか理解することができる
3 ICTの基本的操作スキル	J 入力	起動や終了、ログイン・ログアウト、写真撮影、文字のフリック入力又は手書き文字自動変換機能などの基本操作ができる	小2「生活」大きくそだて、わたしのやさい	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる（8文字程度/1分間）
	K アプリケーション等の使用・操作	標準仕様のWEBブラウザやカメラ機能など、基礎的なアプリケーションを操作できる	小2「生活」やさいをそだてよう	標準仕様の文章作成、表計算、プレゼンテーション系アプリケーション、ノーコードのプログラミングソフトを操作できる
	L 検索	インターネット上の情報を閲覧することができる	小2「国語」くらべて書こう	キーワード検索ができる
	M 保存	ファイルの呼び出しや保存ができる		クラウドを用いて、ファイルの検索や共有ができる
4 情報モラル・情報セキュリティ	N 情報の取り扱いに関する理解	人の作った作品や情報を大切にすることや、その情報をむやみに他者に伝えてはいけないことを理解できる	小1「生活」じょうずに活用しよう	・自他の情報を発信、やり取りする場合の責任を理解できる ・他人が制作した情報を活用する際はURL等を含めた引用を明記する必要があることを知る
	O 情報セキュリティに関する理解	情報機器を使用する際の基本的なルールに基づき正しく使用できる		パスワードを人に教えないなど、情報を守るための基本的な方法を知る
	P 情報モラルなどに配慮しながら情報を活用する力	・パスワードやIDを自分で適切に管理・使用できる ・ルールやマナーを守り、クラウドやインターネットの情報を閲覧できる ・インターネット上に正しくないものがあると理解できる		・自他の個人情報を教えたり、不審なサイトにアクセスしたり、不審なアプリケーションをダウンロードしたりすると危険があることをわかったうえで、インターネットを利用できる ・インターネット上にある正しくないものを見極めようとする ・SNSの便利さと危険について知る
	Q 情報を適切に取扱いながら情報社会に参画しようとする態度	・自他の大切さを理解する ・情報や情報技術を使おうとする		・自他の情報の大切さを踏まえ、適切に行動しようとする ・情報や情報技術を、生活に生かそうとする
5 プログラミング	R 問題解決の手順を考える力	手順を順序立てて説明できる	小1「生活」より良い手順を考える	手順を図解し、説明できる
	S プログラミング的思考	コンピュータには明確な手順を命令する必要があることに気づく		意図した簡単な動作を実現するために、順序を考えたり、くりかえしたりする命令の組み合わせを考えることができる
	T 分解	動きはいくつかの小さな動きに分けられることに気づく		取り組みやすいように小さな動きに分解できる
	U 抽象化	コンピュータに命令するための記号があることに気づく	小2「図画工作」ことばのかたち	コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる
	V 組み合わせ	ものごとには順序のある場面があることに気づく		意図した活動を実現するための命令の組み合わせを考えることができる

大阪府「大阪府情報活用能力ステップシート」〈https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/jyohokatsuyounouryok/index.html〉（令和7年2月5日）

	STEP3（めやす：小学５・６年生）		STEP4（めやす：中学生）	
実践事例 小4「国語」事実をわかりやすく報告しよう 小4「音楽」歌声のひびきを感じ取ろう 小3「算数」長いものの長さのはかり方と表し方	社会の事象に関する課題を設定できる 調査を設計し、情報を適切に収集・検証できる ・複数の表やグラフを用いて整理できる ・情報が信頼できるものか確かめることができる ・得た情報について論理的に考察し、新たな意味を見いだせる ・原因と結果など情報と情報との関係を捉えられる ・情報を取捨選択し、スライドや文書作成、表計算ソフトなどの複数のソフトで相手や目的に応じて表現できる ・インタビューなどで聞いたことや見学・観察などの体験から得られた情報と、統計資料などから読みとったことを関連づけて報告文を書いたり、ポスターセッションなどをすることができる 情報活用を振り返り、効果を見いだせる	実践事例 小6「算数」算数で読みとこう 小5「国語」新聞記事を読み比べよう 小5「社会」これからの工業生産とわたしたち	社会課題に関する課題を設定できる 統計的な調査も含めて設計し、情報を効果的に収集・検証できる ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係を捉えられる ・目的に応じて、複数の表やグラフを用いて情報を統計的に整理・分析することができる ・目的に応じて、収集した資料を多面的・多角的に考察し、新たな意味を見いだせる 様々な相手や目的に応じて情報をまとめ、WEB等で適切且つ効果的に表現できる 情報活用を振り返り、観点を決めて評価し、改善できる	実践事例 中1「社会」世界の諸地域 中2「理科」電流とその利用 中3「国語」古典に学ぶ「論語」
実践事例 小3「理科」昆虫をそだてよう 小4「理科」オリジナル星座をつくろう 小4「国語」生き物のひみつリーフレットを作ろう 小4「国語」アップとルーズで伝える	・ビブリオバトル等を通じて、本の面白さや魅力を知り、伝えようとする ・読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づく ・さまざまな資料、データから読みとった複数の情報をもとに、自分で考えを構築できる ・日本十進分類法（NDC）のしくみを理解して、学校図書館を利用できる ・年鑑、新聞、雑誌などの使い方がわかる ・参考にした資料について、参考文献リスト等を作成することができる 目的に応じて、各種施設（公共図書館、博物館、資料館）の資料等を利用することができる	実践事例 小5「国語」環境問題について報告しよう 小6「総合的な学習の時間」職業紹介パンフレットを作ろう 小5「国語・総合的な学習の時間」伝記を読んでリーフレットを作ろう 小6「国語」防災ポスターをを作ろう	・本やメディアを適切に選択し課題を解決しようとする ・自分の考えを広げたり深めたりすることに、読書を生かそうとする ・考えの根拠として、さまざまな資料、データから読みとった複数の情報を活用し、自分の意見を表現できる ・レファレンスサービスの活用方法について理解して、学校図書館を利用できる ・参考図書などの使い方がわかる ・目的意識や他者意識をもって工夫して情報を発信したり、フィードバックをもらって改善したりすることができる ・目的に応じて必要な学校図書館メディアを複数選択し、比較検討することができる 自ら調べたいことや知りたいことを解決するために各種施設（公共図書館、博物館、資料館）を利用し、課題解決のために活用することができる	実践事例 中1「理科」いろいろな生物とその共通点 中2「総合的な学習の時間」SDGs 中2「家庭」幼児の生活と家族 中3「社会」世界の諸地域
実践事例 小4「理科」地面を流れる水のゆくえ 小3「社会」店ではたらく人と仕事 小3「総合的な学習の時間」将来の仕事を紹介しよう	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる（16文字程度/1分間） 目的に応じて様々なアプリケーションを選択し、操作できる AND、ORなどの論理演算子を用いた検索ができる クラウドを用いて、ファイルやフォルダの管理ができる	実践事例 小5「社会」これからの工業生産とわたしたち 小6「社会」世界のなかの日本とわたしたち 小6「算数」データを整理・分析しよう	キーボードで漢字や句読点等を含めた文章入力ができる又は別の方法で同程度の文章入力ができる（25文字程度/1分間） 複数のアプリケーションを関連づけて操作できる 目的に応じて適切に検索できる クラウドを用いて、規則性に従ったフォルダをつくったり、圧縮やパスワードによる暗号化などを用いた管理ができる	実践事例 中1「理科」植物の分類 中2「数学」図形の調べ方 中3「国語」情報を関係づける
実践事例 小4「道徳」SNSでの伝え方について考えよう	著作権等の情報に関する権利と重要性について理解できる セキュリティソフトやフィルタリングを適用させるなど、情報を守るための手段や方法を知り、使用できる ・ルールやマナーを守り、チャットやクラウドなどを適切に利用し、他人とやり取りができる ・社会に広がっている情報・ニュース等が事実に基づいているか判断したり、正しい情報について調べたりすることができる ・情報に関する自他の権利があることを踏まえ、適切に行動しようとする ・情報や情報技術を、よりよい生活に生かそうとする	実践事例 小6「総合的な学習の時間」言葉や行動について考えよう	発信した情報等について情報社会に及ぼす影響を理解できる セキュリティソフトやフィルタリングなど、情報セキュリティ確保のための対策を自ら確認し、実施できる ・生成AIの仕組み、利便性、リスク、留意点がわかる ・より良い回答を引きだすための生成AIとの対話の方法がわかる ・目的に応じてアプリやインターネット上のサービス等を選択して安全に利用できる ・情報に関する個人の権利と重要性を踏まえ、適切に行動しようとする ・社会は互いに法律やマナーを守ることで成り立っていることをふまえて、行動しようとしている ・情報や情報技術を、持続可能な社会づくりに生かそうとする	実践事例 中3「国語」情報との付き合い方を考えよう
実践事例 小4「図画工作」まほうの花束 小4「総合的な学習の時間」ロボット掃除機	フローチャートなどにより表現できる 意図した複雑な動作を実現するために、条件によって動きを変えたりする命令の組み合わせを考えることができる 複雑な動きを、取り組みやすいように小さな動きに分解できる 目的や意図に合わせ、必要な動きを見出し、コンピュータに命令するための記号や図に置き換えることができる 意図した活動を実現するために、複数の命令を組み合わせてより効果的な組み合わせを考えることができる	実践事例 小5「算数」体積 小5「理科」ぼくらの探究レポート	アクティビティ図などにより表現できる 生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見いだして課題を設定し、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想したり、処理の流れを図などに表し思考等を通じて解決策を具体化できる 計測・制御、双方向性のあるコンテンツの制作、ネットワークやデータを活用して処理するプログラミングを行うために、必要な動きに分解できる 目的や意図に合わせ、必要な動きを見いだし、課題解決に必要な機能をプログラミング言語等を用いて表現することができる 安全・適切なプログラムとなるように、複数の命令を組み合わせたり、他者と協働して粘り強く、より効果的なプログラムとなるよう評価、改善及び修正を行うことができる	実践事例 中3「技術・家庭」Scratchで課題を乗り越えよう 中3「技術・家庭」計測・制御のプログラムによる問題解決

目次へ

（2）年間指導計画 小学6年（例）

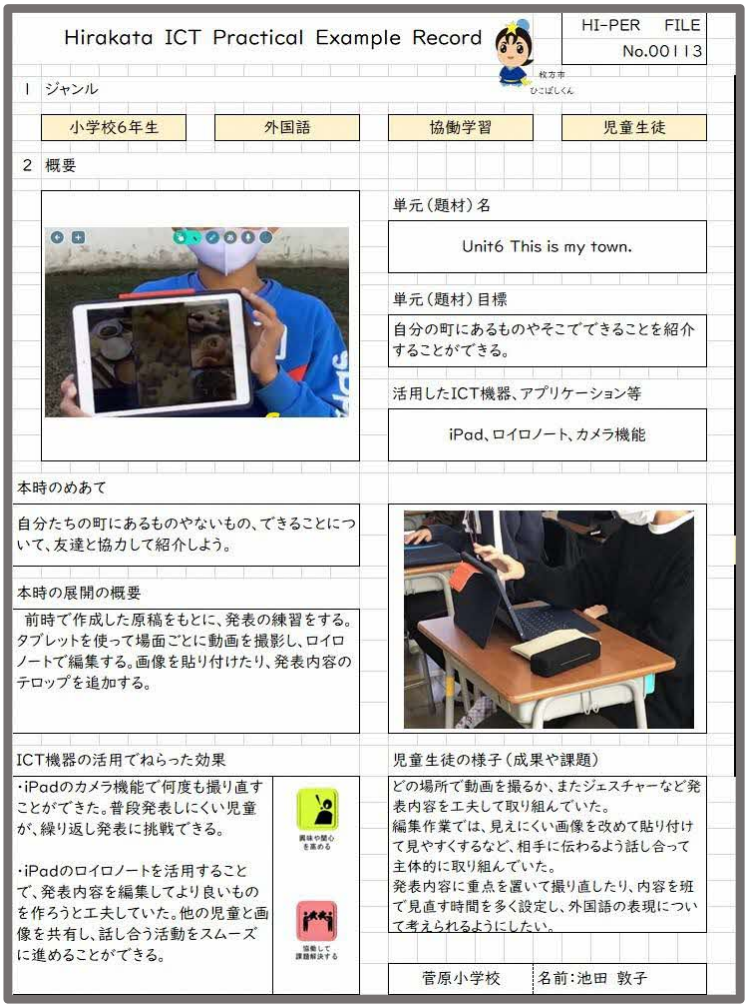
前述の大阪府情報活用能力ステップシートを該当学年で確実に育成するため、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から、各校の実態に応じたカリキュラムの編成を行います。

○ 学びスキル	A 課題設定	B 収集	C 整理・分析	D まとめ・表現	E 振り返り・改善
○ 学校図書館活用スキル	F 本やメディアに親しもうとする態度	G 図書館資料を利用する力	H メディアを活用する力	I 公共図書館等を活用する力	-
○ ICTの基本的操作スキル	J 入力	K アプリケーション等の使用・操作	L 検索	M 保存	-
○ 情報モラル・情報セキュリティ	N 情報の取り扱いに関する理解	O 情報セキュリティに関する理解	P 情報モラルなどに配慮しながら情報を活用する力	Q 情報を適切に取り扱いながら情報社会に参画しようとする態度	-
○ プログラミング	R 問題解決の手順を考える力	S プログラミング的思考	T 分解	U 抽象化	V 組み合わせ

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語科	図表やグラフ等をレイアウトしてポスターを作る（C、D、G、H、K）	「防災ポスターを作ろう」		「インターネットの議論を考えよう」	情報を整理してプレゼンテーションを作る（B、C、D、G、H、K、L、N）	「町の未来を考えよう」	「世界に向けて意見文を書こう」	図表等を用いて、文字入力で意見文を書く（J、M）	「卒業文集を作ろう」	推敲を重ねながら、文字入力で原稿を書く（A、C、D、J）	
各教科等	理科通年										
	実験や観察等の記録をとる、ネット上の情報を集める（体のつくり等）。学習したことをまとめたり発表したりする（B、C、D、H）										
	社会通年										
	見学や調査等の記録をとる、ネット上の情報を集める（歴史等）。学習したことをまとめたり発表したりする。（B、C、D、H、L）										
プログラミング				算数「円と正多角形」 「スクラッチの基本的な使い方」2H		「レゴ」2H	図工「色と動きを変化させよう」		算数「データの調べ方」 「マイクロビット」2H	理科「発電と電気の利用」	
						順次、分岐、反復を含んだプログラム作成を行い、評価・改善できる。（R、S） 情報技術の価値を自分の身の回りの生活と関連付けて考えることができる（Q）					
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間 通年										
	見学や調査等の記録をとる、ネット上の情報を集める。学習したことをまとめたり発表したりする。（B、C、D、G、H、K、L、N）										
道徳科での情報モラル						生活の中で必要となる情報セキュリティを理解する（O）	道徳「あなたはどう考える？」	情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考えて適切に使用する（N）			

6. 実践事例　Hirakata ICT Practical Example Record

枚方市立全小中学校教員で進めている「ICT機器を効果的に活用した授業改善・家庭学習改善」の実践を、市内全教職員で共有できるシステムを構築しています。「学年」「教科等」「学習形態」「対象」で事例の検索をすることがます。また、「HI-PER the Movie」には授業づくりに精通した教員「枚方市授業マイスター」によるICTを活用した授業の動画を掲載しており、授業改善の参考にすることができます。



Hirakata ICT Practical Example Record　HI-PER FILE No.00113

1 ジャンル

小学校6年生	外国語	協働学習	児童生徒

2 概要

単元(題材)名：Unit6 This is my town.

単元(題材)目標：自分の町にあるものやそこでできることを紹介することができる。

活用したICT機器、アプリケーション等：iPad、ロイロノート、カメラ機能

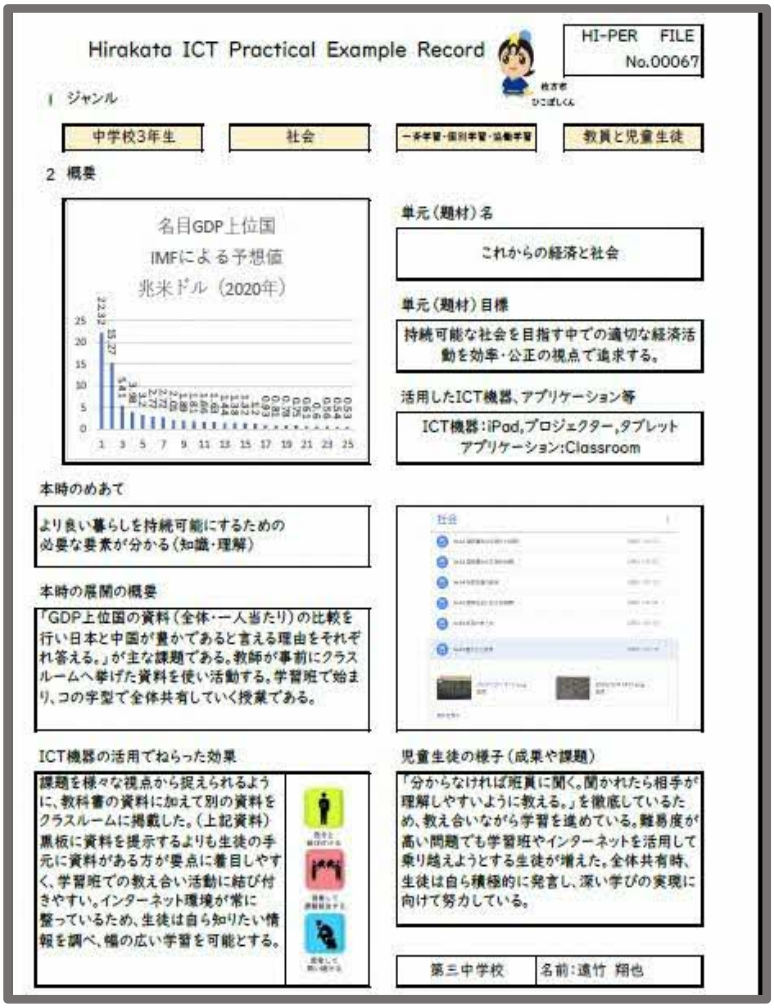
本時のめあて：自分たちの町にあるものやないもの、できることについて、友達と協力して紹介しよう。

本時の展開の概要：前時で作成した原稿をもとに、発表の練習をする。タブレットを使って場面ごとに動画を撮影し、ロイロノートで編集する。画像を貼り付けたり、発表内容のテロップを追加する。

ICT機器の活用でねらった効果：
・iPadのカメラ機能で何度も撮り直すことができた。普段発表しにくい児童が、繰り返し発表に挑戦できる。
・iPadのロイロノートを活用することで、発表内容を編集してより良いものを作ろうと工夫していた。他の児童と画像を共有し、話し合う活動をスムーズに進めることができる。

児童生徒の様子(成果や課題)：どの場所で動画を撮るか、またジェスチャーなど発表内容を工夫して取り組んでいた。編集作業では、見えにくい画像を改めて貼り付けて見やすくするなど、相手に伝わるよう話し合って主体的に取り組んでいた。発表内容に重点を置いて撮り直したり、内容を班で見直す時間を多く設定し、外国語の表現について考えられるようにしたい。

菅原小学校　名前：池田 敦子



Hirakata ICT Practical Example Record　HI-PER FILE No.00067

1 ジャンル

中学校3年生	社会	一斉学習・個別学習・協働学習	教員と児童生徒

2 概要

単元(題材)名：これからの経済と社会

単元(題材)目標：持続可能な社会を目指す中での適切な経済活動を効率・公正の視点で追求する。

活用したICT機器、アプリケーション等：ICT機器：iPad,プロジェクター,タブレット　アプリケーション:Classroom

本時のめあて：より良い暮らしを持続可能にするための必要な要素が分かる(知識・理解)

本時の展開の概要：「GDP上位国の資料(全体・一人当たり)の比較を行い日本と中国が豊かであると言える理由をそれぞれ答える。」が主な課題である。教師が事前にクラスルームへ挙げた資料を使い活動する。学習班で始まり、コの字型で全体共有していく授業である。

ICT機器の活用でねらった効果：課題を様々な視点から捉えられるように、教科書の資料に加えて別の資料をクラスルームに掲載した。(上記資料)黒板に資料を提示するよりも生徒の手元に資料がある方が要点に着目しやすく、学習班での教え合い活動に結び付きやすい。インターネット環境が常に整っているため、生徒は自ら知りたい情報を調べ、幅の広い学習を可能とする。

児童生徒の様子(成果や課題)：「分からなければ班員に聞く。聞かれたら相手が理解しやすいように教える。」を徹底しているため、教え合いながら学習を進めている。難易度が高い問題でも学習班やインターネットを活用して乗り越えようとする生徒が増えた。全体共有時、生徒は自ら積極的に発言し、深い学びの実現に向けて努力している。

第三中学校　名前：遠竹 翔也

HI-PER

HI-PER the MOVIE

目次へ

「いつでも」「どこでも」「つながる」

1人1台端末の可能性

∞

無限大

枚方版ICT教育モデル ～ICTの活用による新しい学校教育の確立～
発行日　令和3年（2021年）3月　第1版
令和4年（2022年）3月　第2版
令和5年（2023年）3月　第3版（令和5年3月27日一部改訂）
令和6年（2024年）3月　第4版（令和6年3月27日一部改訂）
令和7年（2025年）3月　第5版（令和7年3月27日一部改訂）
著者名　枚方市教育委員会事務局
発行者　枚方市教育委員会事務局
発行所　枚方市教育委員会事務局
連絡先　枚方市教育委員会事務局
〒573－1159 大阪府枚方市車塚1丁目1－1
輝きプラザきらら 枚方市教育委員会事務局
電話番号 050－7105－8051

・本モデルの無断転載・複写は、著作権法上の例外を除き禁じられています。
・インターネット、モバイル等の電子メディアにおける無断転載もこれに準じます。